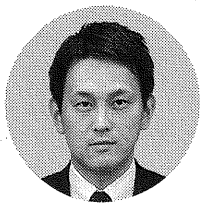


ユニットクーラー・熱交換器の専門メーカーとして今年創業から75年目を迎える原製作所(社長 原正憲氏、本社・茨城県稲敷市下根本7940-1)。

同社は今回のHVAC & R JAPAN2022において「食品の流通に係わる低温貯蔵と食品の急速凍結に使用される熱交換器・ユニットクーラーの製造販売を通じて食の安全に貢献する」という社是に基づき、食品加工工場などで多用されるソックタクト対応型ユニットクーラーCタイプ、CO₂冷媒対応(直



原 正憲社長

CO₂から床置まで最新機を出展

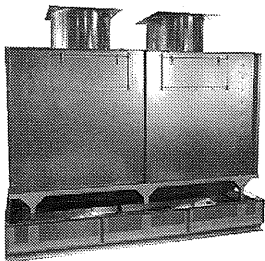
原製作所

展示会仕様で細部に見せ場も

膨らみ天井型ユニットクーラーCタイプ、天井型低風量・薄型ユニットク

ーラーCタイプ、床置型ユニットクーラーTタイプの4製品を出展する。原正憲社長は「前回の2020年開催でも、新製品として参考出品する予定であったものも一部あり、またこの2年で社内での知見を構築したCO₂クーラーなどを来場者へ訴えかけていく。前回の開催中止では、その後自社でのプライベートショーなども検討したが2年に渡るコロナ禍中でチャンスを見失った。今回は首都圏の4都県には、まん延防止等重点措置が適用されているが、感染対策を十分にとり、気を引き締めて出展に臨む」と4年振りの展示会に掛ける想いを示す。原製作所は2012年の初出展から通算、5回目の出展となる。

今回の展示品仕様として、圧力8MPaでECファン搭載モデル。従来のACモーターと比べて最大3割の省エネとなる。使用温度範囲はマイナス10度C以上で冷凍能力は7.62kWと広範囲をカバーする。用途は冷蔵・冷凍用。ラインナップとしては除霜方式がオフサイクルのHFC-14TFAOとヒーター方式の14TF-1BHの2タイプを揃えている。使用庫内温度はAOが3度C以上、BHは3度Cからマイナス10度Cとなっている。また



また近年、食品加工工場などで対人空調としても採用が伸びているソックタクト対応型については食品加工室や冷蔵作業室用として使用される。本来目的はドラフト感の軽減と異物混入防止といった対人作業環境の担保にある。今回は従来品に比べて低騒音(10dB減少)、製品高さのサイズダウンを計った。展示品仕様としては、冷却器は銅管+アルミフィン(プレコート加工)、ケーシングの材質はSUSS304の焼付塗装となっている。



同社のブーシイメー

吹付塗装(アルミニウム微粉末含有ポリウレタン塗膜を形成)を施し、ケーシングにはSUSS304、ドレンパンは開閉仕様としている。床置型ユニットクーラーの展示品仕様はAタイプの下吸込上吹き型を用意。送風機にはテラル製のPMモーター搭載軸流送風機が設置されている。

また低風量・薄型ユニットクーラーCタイプは農業用、キノコ用、産業空調用、低温冷房用、氷温冷蔵用などに使用される。使用庫内温度はマイナス10度C以上。冷凍能力は3.25kW。展示品仕様は熱交換器の耐熱性処理としてカチオン電着塗装(エポキシ樹脂系塗膜を形成)とポリユア

さて原製作所における2022年度(21年8月〜22年7月)については年初の同社聞き取りでも受注状況に明るさも見え、既に21年度越えは確実で、コロナ禍以前の成長軌道への戻りを予感する。特に大型案件の取込みでは久方ぶりの9桁台の受注規模となる見込みとする。